

滋賀県立近代美術館協議会(第29回)概要

1 開催日時：平成20年(2008年)11月14日(金)午前10時00分～12時00分

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者：滋賀県立近代美術館協議会委員 9名

岩城見一委員 北川邦之委員 鹿田由香委員 辻喜代治委員

土田隆生委員 橋本享子委員 松村順子委員 三原サダ子委員

八幡はるみ委員

滋賀県立近代美術館事務局

尾野館長・青山副館長・桑山総括学芸員・高梨学芸課長・鈴木総務課長

門脇県民文化課課長

4 会議次第

(1)滋賀県立近代美術館 尾野館長 あいさつ

(2)滋賀県立近代美術館協議会出席委員の紹介

(3)議 事

会長および副会長の選出について

滋賀県立近代美術館中期経営計画(案)について

その他

5 概要

(1)会長および副会長の選出について

委員の互選により、会長に岩城見一委員が、副会長に辻喜代治委員が選出された。

(2)滋賀県立近代美術館中期経営計画(案)について

【委員】

策定の趣旨に、「社会が美術館に求めているものを改めて見極める」とあるが、美術館はこれをどう捉えているのか。

【事務局】

美術館にどのようなニーズがあるのかを正確に把握するためには、計画(案)に掲げている来館者調査が必要であるが、当館のような大都市近郊の中規模美術館は、厳しい財政状況のもとで活動を絞り込まざるを得ない。大規模な展覧会のニーズに応えられる美術館は関西にいくつかあるので、当館のような美術館は違う方向を見出さなければならない。幸いなことに、当館には教育事業について大きな蓄積がある。とりわけ今年度は、教育プログラムがなければ展覧会の観覧者がもっと少なかった。地域の住民が美術館をどのように利用したいのかが見えてきたと思う。このようなことから、当館は教育に特化することで、地域の住民の要望に応えることができると考えている。

【委員】

目標として「学びの場としての美術館を目指します」「出会いの場としての美術館を目指します」「美的感性を育む場としての美術館を目指します」としているが、社会教育を推進するということから、美術館としては「美的感性を育む場としての美術館を目指します」が最初にくるべきではないか。学びの場、出会いの場というのは、二次的なものと考えるがどうか。

ご意見は十分理解した。ただ、「美的感性を育む場」というのは、非常に抽象的な文言で、具体的にどうするかとなるとなかなか難しい。それに比べて、「学びの場、出会いの場」は具体的な事業を組みやすいし、また、「美的感性を育む場」というのは、「学びの場、出会いの場」でも実現できるものであることから、このような順にしたところである。

【委員】

滋賀県立近代美術館が実施した自己評価をみると、教育普及が低い数値になっているが、鑑賞とワークショップをうまく組み合わせるなど、他の美術館には見られないほどよくやっていると思う。教育普及の目標達成に向けた取り組みとして教養室の改修が掲げられているが、具体的な姿はどのようなものか。

【事務局】

県財政が厳しいことから、人命に関わることや消防点検で指摘を受けている施設の改修を優先せざるを得ない状況にある。しかしながら、ワークショップを充実させるために教養室を改修するなど、美術館の教育機能を強化するための施設改修も必要であると考えており、予算確保に努めたい。

【委員】

計画（案）では企画展示室の貸出が掲げられており、平成23年度には4展・24日という目標が設定されている。美術館は質の高い展覧会を開催することが求められているが、美術館が主催する展覧会と企画展示室の貸出との関係はどうなるのか。美術館の主催する展覧会は少なくとも年4回は必要と考えるがどうか。また、企画展示室の貸出にあたっては、美術館のレベル低下にならないように十分留意されたい。

【事務局】

企画展の開催は年3～4回となっているが、ひとつの目安であり、年によっては多少の幅を持たせることになると思う。また、企画展の会期を可能なかぎり長くするなどの工夫も試みてみたい。企画展示室の貸し出しに際して、館主催の展覧会を優先させることはいうまでもない。なお、企画展示室をどの程度ご利用いただけるかについては不確定な要素が多いので、数値目標は低めに設定しているところである。

【委員】

他の美術館との連携を進めるとされているが、それを進めることにより、経費を抑えて質の高い展覧会を開催することができるようになると思われる。近隣だけではなく、遠方の美術館との連携も進められたい。

【事務局】

現在、兵庫県立美術館との連携を進めているが、その過程で、連携に伴う課題が明らかになってくると思われる。それらを踏まえて他の美術館との連携にも努めていきたい。

【委員】

展覧会中心の施設から教育中心の施設に移行することについて賛成する。現在でもワークショップの回数は多いと思われるが、どのような内容か。また、回数を多くしても、内容が薄くなっては良くない。大原美術館では、毎年夏休みの最終土日には、館全体を使って20以上のイベントを実施するワークショップの日という事業を行っており、夏祭りのような感じで大層にぎわっている。参考になればと思う。

【事務局】

企画展に関連したもの、子どもを対象として毎月実施しているもの、夏休みや文化の日に実施しているものなどいくつかの種類がある。また、半日程度のプログラムが多いが、終日を費やしているものもある。参加者は県内の方が多いが、京都や大阪からも参加されている。

【委員】

ワークショップ参加者の大人と子どもの割合はどうか。

【事務局】

子どもを対象としているものが多いことから、大半は子どもである。

【委員】

子どもを対象としたワークショップの実施、若手芸術家を育成するための支援、託児サービスの検討など、それぞれの世代を対象とした取り組みが掲げられているが、中高年を対象とする事業にも取り組まれない。また、ミニ・ギャラリーは学生だけの展示に限られているが、創作活動を行っている人が気軽に展示できる場をつくるということは考えていないのか。

【事務局】

中高年を対象とした事業へのニーズは今後ますます増えてくることは確実であるが、学芸員よりも遙かに経験を積んだ中高年を対象とするワークショップを実施するのはなかなか困難であり、美術館にそのためのノウハウがないのが実情である。今後の課題であると認識している。ミニ・ギャラリーについては、若い芸術家の支援と支援者制度をリンクさせて、まず対象を学生に絞って実施してみたい。その後については利用状況も見極めて検討するが、小さな個展のための場所としては美術館以外にもあるのではないか。

【委員】

県内の入館者が他府県からの入館者に比べて少ないような気がするが、広報に問題があるのではないか。滋賀県の施設であるから、滋賀県民がより多く利用できるような企画が必要ではないか。また、子どもたちへの文化のシャワーが大切であり、子どもが本物の美術と出会うことが大事であると考えがどうか。

【事務局】

滋賀県に根ざした展覧会でも、京都や大阪から多くの方にお越しいただいている。滋賀県民の方を中心に事業を企画し広報することは当然であるが、美術館の立地する湖南地域は京都や大阪と一体化しているのも事実であり、美術館経営の面から考えても、これらの地域を無

視することはできないと思う。また、子どもたちの文化体験については大切なことだが、たとえば、子どもたちを美術館に連れてくるに際しては、学校現場にも様々な問題があると聞いている。学校や教育委員会と連携して、じっくり取り組んでいく必要があると考えている。

【委員】

滋賀県立近代美術館が実施した自己評価ではかなり厳しく評価されているが、日本経済新聞が行った全国美術館の実力調査では滋賀県立近代美術館は高く評価されている。自己評価とならべながら、こういうことも、もっとアピールすればどうか。また、美術館サポーターによるギャラリートークにトラブルが多いとの説明があったが、どういうことか。

【事務局】

日経のアンケートについては様々な問題点があると聞いているので、高い評価に慢心することのないように、今後も努力を続けていきたい。当館では毎日、常設展と企画展で美術館サポーターが作品解説を行っているが、作品を分かりやすく説明してくれたという評価がある一方で、静かに作品を鑑賞する妨げになるとのアンケートも数多く寄せられている。どちらの言い分にも理があるだけに難しい問題であると思う。お互いの誤解や摩擦を少なくする方法がないかどうか、今後もさらなる工夫や改善を試みたい。

【委員】

企画展も充実してほしいが、地域の作家の発表の場が少なくなっているなかで、企画展示室を貸出することは高く評価する。文化団体の記念展などで貸出回数が増えていくことを期待したい。

【委員】

計画（案）の内容についてはすばらしいものである。目標が3つ掲げられているが、美術館とは何かというような、大きな目標を挙げることは考えなかったのか。また、広報などで、美術館と県民とはつながっているということをイメージさせるような発信をすることが必要である。そのことが美術館の利用を高めることになると考える。

【事務局】

使命の作成に際しては、分かりやすく、かつまた象徴的な文言で構成するようにこころがけたつもりである。より大きな使命の作成も考えられなくないが、大きくなればなるほど単なるスローガンに堕してしまう可能性もあると思う。

【委員】

計画（案）はかなり謙虚で、厳しい自己反省のうえに成り立っている。評価すべき点は多々ある。評価すべき点は遠慮なく積極的に主張し、より良い計画とされたい。